

# つばさ保育園 自己評価表

2025 年度 評価責任者：園長 福井 茂

	今年度の活動	評価・反省 課題
施設管理	事業譲渡に伴い、つばさ保育園を開園した。2011 年建設の施設で、給排水や建具等の劣化があり、修繕が予測された通り、園庭やトイレ、手洗いの修繕を行った。さらに防火扉などの蓄電池の交換、ランチルームの雨漏り対策など、様々な修繕工事を実施した。給食室は機器の更新や床面のめくれた箇所の安全対策も実施した。	長年、改修できていなかった箇所もあったが、こどもの安全な生活を考え、順次、修繕ができて良かった。また、次年度以降も計画的に施設改修や修繕を実施し、こども、保護者、職員の生活環境、保育環境の維持に努める。
人事管理	事業譲渡に伴い、引継ぎ職員が 9 割継続し、園児 97 名を職員 35 名の体制を整えることができた。園長・副主任 4 名で運営の中心を担い、現場より栄養士・看護師の専門家も踏まえ、会議を行い方針や調整を行ってきた。職員面談を定期的に行い、人材育成につなげた。年度途中で 6 名採用し、待機児童解消に向け、103 名まで拡大した。正規退職者は 3 月末で定年退職も含め 2 名だけで、働き続けられる職場づくりに取り組めた。	中長期を見据え、業務内容や役割について確認し、職員一人ひとりの意識の向上に努めた。面談も年 2 回実施し、職員のおもいや現状を把握する大切さや職員会議、まよめの会議などで実践を語り合うことにつながった。次年度以降も職員相互の理解につながるよう保育実践していく。
保護者対応	保育内容の充実を掲げ、食育・身体づくり・表現・主体性の 4 本柱で保育に取り組んだ。園外保育の充実により、田植えや稲刈り、収穫体験を通し、クッキング等の食育活動の充実につながったことを保護者の方より高い評価があった。運動会や生活発表会はこどもも大人も楽しめる行事となった。情報共有や発信に向け、ホームページを作成した。	年 2 回、保護者アンケートを実施し、保育園の課題を明確にし、改善につながったことは良かった。次年度以降も保護者の意向に向け、対話やアンケートを実施する。活動はさらなる園外保育（バス遠足）の充実や食育の豊かな経験を実践していく。
健康及び安全	これまで看護師不在であったが、看護師を雇用できたことで、健康・安全面の充実を図った。こどもの活動量は散歩や園外保育の充実に伴い、自然の中でたっぷりとおそぶことで体力向上につながった。 施設点検については、保護者と共に実施することで、幅広い視点での確認につながった。安全面については、計画に基づき、非常対策訓練も毎月行い、災害対策を行った。安全衛生推進委員会を立ち上げ、感染症対策や職員の健康管理も含め、保健活動の充実につながった。	看護師の存在は、こども・保護者、職員の安心感につながった。保育内容の充実に伴い、こどもたちの身体の育ちや職員の安全意識が高まった。安全計画に基づき、職員・保護者と施設点検を実施した。危険箇所は無いかな、更新すべき備品や修繕箇所などを確認することができた。感染症対策に迫っては、社会的に拡大しているケースの防止は難しい。
小学校・地域連携	近隣の小学校との交流希望はあったが、市との調整も含め、年度末に交流が実施でき、次年度以降の展望ももてた。実習生は 0 名であったが、高校・中学生のボランティアなどの受け入れができ、未来の保育士養成に貢献できた。 保育園周辺には住宅が無く、地域むけの園庭開放には年間で延べ 3 組しか参加がなかった。社協の校区との連携では、これまでつなげられなかった状況から発展があった。	地域連携では、小学校との交流や引継ぎなど、連携が図れ、次年度以降も充実させていく。実習の受け入れに向けては、引き続き連携を図っていく。ボランティア等の受け入れについてもより充実させていく。 地域活動に向けては、保護者とのつながりをもとに、要求の高い食育活動を充実させ、参加者を増やしていく。
保育の質の向上	箕面市の研修に正規職員は全員参加し、さらに園内研修の充実や法人研修など、学びを深め、保育の質の向上に取り組めた。運営メンバーは保育の文献も活用し、学びを深めました。 外部講師を依頼し、年間を通じて、運動あそび、体操教室、サッカー教室を実施し、学びを実施した。 日々の保育実践を丁寧に行い、職員会議やまよめの会議で保育実践を語り合い、学ぶ機会を持った。各種団体や保育園の要請を受け、講師派遣にも努めた。	行政研修や園内研修・外部研修など、みんなで学ぶ機会を増やすことで、職員一人ひとりが保育を自分のことばで語れるようになった。次年度以降、保育の質の向上にむけて、保育雑誌の定期購読を行い、会議等で学びを深めていく。また、自己テーマに基づき、実践をまよめ提案する、保育を語る力が育つよう、語り合いの保育を継続していく。
その他	開園 1 年目ではあったが、職員と意思統一を図りながらこれまでの保育の歴史と取り組みを継承しつつ、法人の理念や基本方針に基づき、保育を創造してきた。 卒園式では、こどもの育ちを確かめ合い、喜び合える機会を持てた。保護者より「事業譲渡に伴い、法人が変更したことには不安はあったが、よりよい方向で変化していただき感謝している」と率直な言葉いただいた。職員も法人変更について、複雑なおもいはあったとおもうが、こどもや保護者のことを考え、安定した保育に努め、よくがんばった。	職員は、保護者と共に、これまでの保育園の歴史を継承しつつ、課題については改善し、1 年間保育園運営に取り組むことができた。卒園の記念樹「さくら」を植樹し、つばさ保育園のこれからの未来につながる取り組みとなった。次年度以降も、こども・保護者・地域にとって必要とされる保育園を追求していく。